

Title	A Mean-Variance-Skewness Portfolio for Asian Emerging Stock Market with Optimal Currency Hedges
Sub Title	
Author	菅井桂一 (Sugai, Keiichi) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1346号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1346

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1346

学生氏名

菅井 桂一

主査 太田 康信
副査 柳原 一夫
辻 幸民

所属

太田 康信 研究室

A MEAN-VARIANCE-SKEWNESS PORTFOLIO FOR ASIAN EMERGING STOCK MARKET WITH OPTIMAL CURRENCY HEDGES

現在、日本においては、1200兆円にもものぼる個人金融資産のうち、わずか150兆円が有価証券への投資である。歴史的に低金利下で豊富な資金が運用先を失っている。

アジア・エマージング市場は、現在その高成長の調整期であるが、なお将来的に魅力的な市場であろう。本研究においては投資対象として1993年における時価総額トップ20位ランク入りをしている香港、マレーシア、台湾、韓国、タイ、シンガポールを研究する。

現代ポートフォリオ理論においては、平均・分散による2パラメータが中心であり、平均・分散・歪度による3パラメータモデルの研究は十分とは言えない。平均・分散・歪度による分析を用いることでアジア・エマージング市場を分析し、日本・アメリカ市場と比較しつつ、より効果的ポートフォリオ構築の参考とする。また合わせて為替ヘッジについてもアジア・エマージング市場の特性も考慮しつつ最適なヘッジについて検討する。ポートフォリオ構築にあたっては4パターンについてシミュレーションを行い、日本の機関投資家の効用関数を用いて、最適なる投資比率を導く。

上記研究を通じて、平均・分散・歪度による3パラメータ構築のフレームワークの作成を帰結とする。